

2020年度決算説明会

2021年5月24日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

<お問い合わせ先>

取締役常務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

目次

1 | 2020年度 決算概要

2 | 2021年度 業績予想

3 | 事業別 業績概要

4 | 付属資料

2020年度 決算概要

為替レート	2019年度 実績	2020年度 実績
米ドル (円/US\$)	108.9	105.9
ユーロ (円/Eur)	121.2	123.6

2020年度 決算概要

- COVID-19で無機化学事業を中心に厳しい事業環境に直面するも、為替レートが期末に向けて想定以上の円安となり、増収増益
- 普通配当12円/株を18円/株に増配する議案を定時株主総会へ付議

(単位;億円)	2019年度 実績	2020年度 実績	増減	2020年度予想 (2021年2月)	差異
売上高	1,010	1,017	7	1,000	17
営業利益	61	51	△ 10	35	16
経常利益	53	59	5	33	26
純利益	23	33	10	13	20
配当(円/株)	※ 20	18	△ 2	12	6

※ 内8円は創立100周年記念配当

2020年度 事業別売上高・営業利益

<無機化学事業>

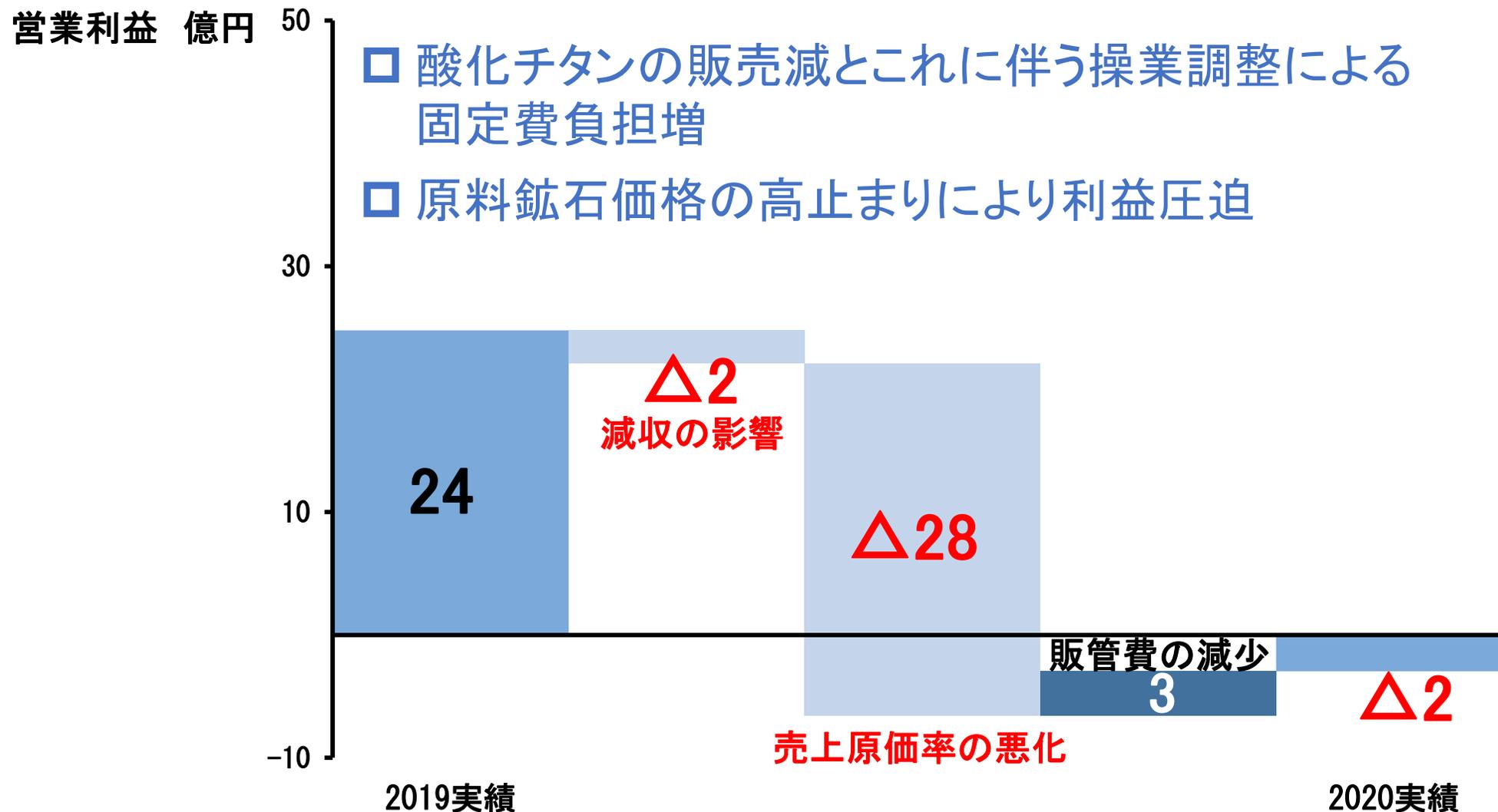
- 酸化チタンは、COVID-19の影響により前半に自動車及び建築用途向けが大幅に減少したあと、徐々に回復傾向に転じ、期末に向けて回復度合いが強まったが、期を通じての挽回には至らず減収。
- 機能性材料は、電子部品材料が5G関連で堅調に推移。一旦落ち込んだ自動車関連も期後半には回復の動きがあり、加えて、抗菌・抗ウイルス分野で光触媒用酸化チタンが伸長するなどして増収。

<有機化学事業>

- 主力農薬の販売は、COVID-19の影響が限定的で堅調に推移。米国の穀物生産が活況でトウモロコシ用除草剤などの販売が好調。欧州での、競合剤の登録失効による殺線虫剤の販売が伸長。アジアでは害虫の多発で殺虫剤が拡大するなど、増収。
- 動物用医薬品、医薬の原薬販売は増収。

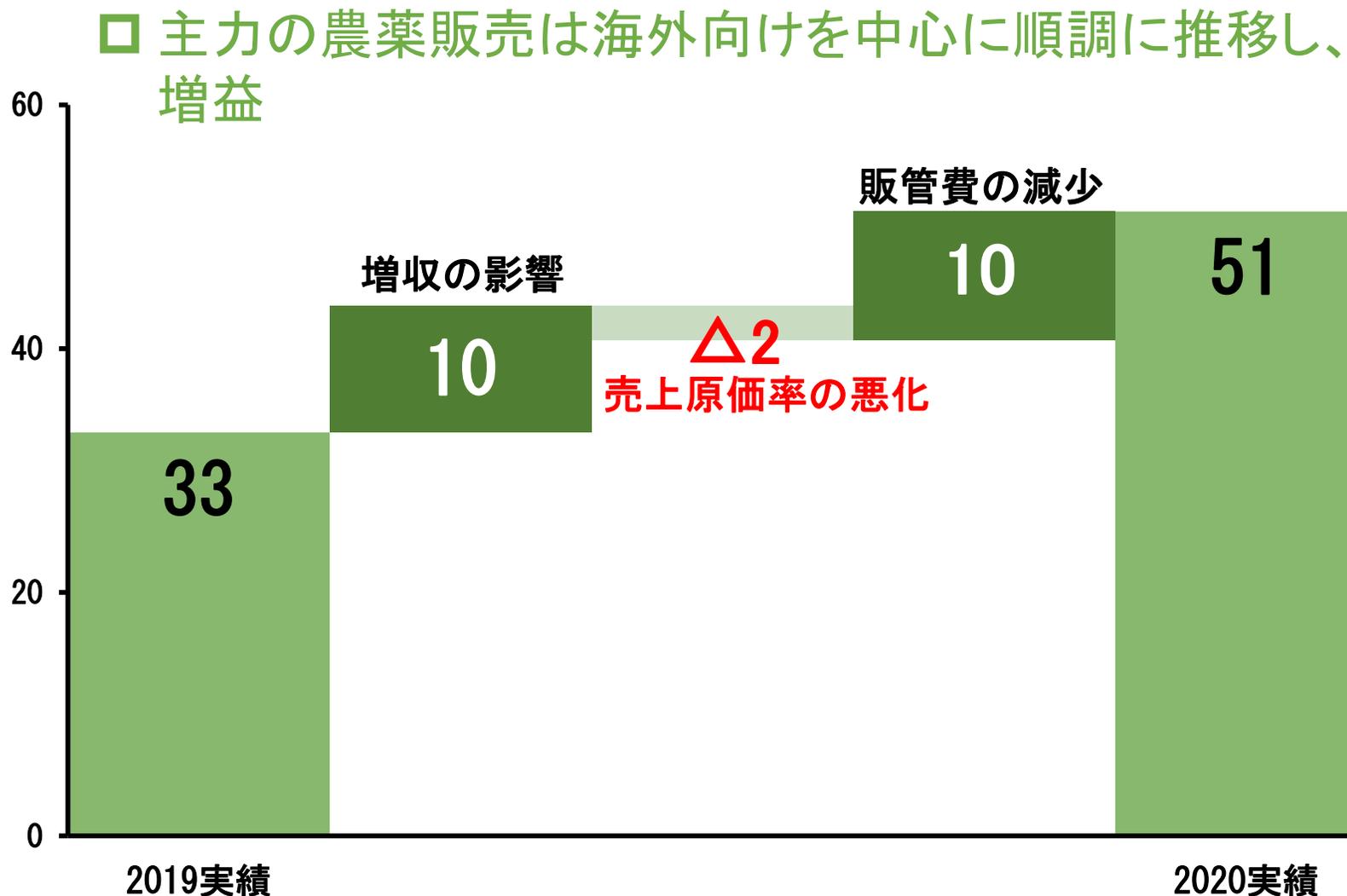
(単位;億円)	2019年度 実績		2020年度 実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	515	24	498	△ 2	△ 16	△ 27
有機化学事業	461	33	483	51	21	18
その他	33	3	35	3	1	△ 0
合計	1,010	61	1,017	51	7	△ 10

無機化学事業 営業利益増減要因



有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円



営業外損益・特別損益

<営業外損益>

□ 期末にかけ円安が進み為替差益を計上

科目 (億円)		2019年度 実績	2020年度 実績	増減
営業外	金融収支	△ 2	△ 2	0
	為替差損益	△ 4	5	10
	持分法利益	2	0	△ 1
	その他	△ 3	3	6
計		△ 8	7	16

<特別損益>

□ バイオ医薬品HVJ-E開発事業からの撤退による損失約9億円を計上

科目 (億円)		2019年度 実績	2020年度 実績	増減
特別損益	固定資産処分損	△ 6	△ 6	△ 0
	事業撤退損	—	△ 9	△ 9
	減損損失	△ 4	△ 4	△ 0
	関係会社整理損	△ 3	—	3
	その他	1	0	△ 1
計		△ 12	△ 20	△ 7

2020年度末 貸借対照表

- 現預金は前期末比+50億円の259億円、売掛債権は+21億円の342億円、棚卸資産は+7億円の544億円、有形固定資産は+8億円の471億円
- 有利子負債は前期末比+75億円の601億円、買掛債務は△29億円の144億円

科目 (億円)	2020年 3月末	2021年 3月末	増減
流動資産	1,103	1,170	66
現預金	209	259	50
売掛債権	320	342	21
棚卸資産	537	544	7
その他	36	23	△ 12
固定資産	621	630	9
有形固定資産	462	471	8
無形固定資産	4	5	0
投資その他資産	153	153	△ 0
資産合計	1,724	1,800	75

科目 (億円)	2020年 3月末	2021年 3月末	増減
負債	957	1,005	47
買掛債務	174	144	△ 29
有利子負債	525	601	75
引当金	31	29	△ 2
退職給付に係る負債	128	126	△ 1
その他	97	103	5
純資産	766	795	28
株主資本	786	811	25
その他包括利益累計額	△ 19	△ 16	2
負債・純資産合計	1,724	1,800	75

2020年度 キャッシュフロー計算書

- 減価償却費を上回る設備投資などによりF.C.F.は△14億円

(単位;億円)	2019年度 実績	2020年度 実績	増減
営業キャッシュフロー	33	47	14
税金等調整前当期純利益	40	39	△ 1
減価償却費及びその他償却費	48	50	1
運転資金等	△ 46	△ 39	7
法人税等支払額	△ 9	△ 3	6
投資キャッシュフロー	△ 69	△ 61	7
固定資産の取得・売却	△ 66	△ 60	5
投資有価証券の取得	△ 1	△ 0	1
投融資資金等	△ 1	△ 0	0
財務キャッシュフロー	5	63	58
借入金・社債増減等	10	71	61
自己株式取得	△ 0	△ 0	0
配当金支払額	△ 4	△ 7	△ 3
現金及び現金同等物に係る換算額	△ 0	0	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 30	50	80
現金及び現金同等物の期末残高	209	259	50

2021年度 業績予想

為替レート	2020年度 実績	2021年度 予想
米ドル (円/US\$)	105.9	105.0
ユーロ (円/Eur)	123.6	128.0

2021年度 業績予想

- 有機化学事業の減益を見込むものの、無機化学事業の回復により、増収増益の見通し

(単位;億円)	2020年度 実績	2021年度 予想	増減
売上高	1,017	1,030	※ ー
営業利益	51	63	11
経常利益	59	47	△ 12
純利益	33	36	2

■ COVID-19による業績予想への影響

- ・ 現時点で想定し得る影響を一定程度織り込む
- ・ 感染拡大の先行きは不透明ながら、経済活動は回復基調で推移
- ・ ワクチン接種も開始され、業種間の景況差はあるものの全般的に景気回復が続くと見込む

※2021年度期首より「収益認識基準に関する会計基準」などを適用し、当該基準などに基づいた予想のため、売上高のみ増減額を記載していません。

2021年度 業績予想 (事業別売上高・営業利益)

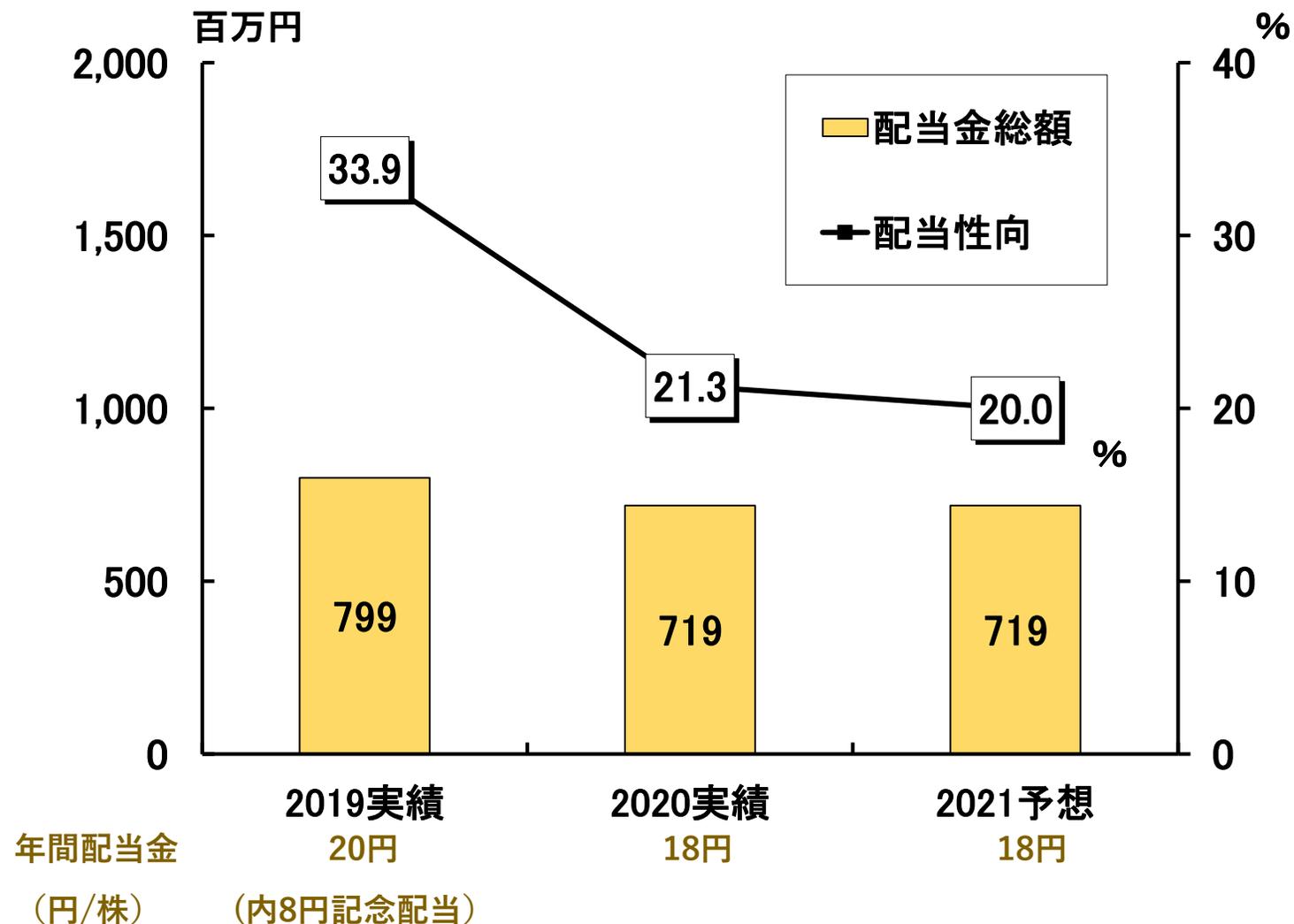
- 無機化学事業は、引き続き回復基調で推移する見通し
- 有機化学事業は、前年度並みの販売を維持する見通し

(単位;億円)	2020年度 実績		2021年度 予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高 新収益認識	営業利益	※売上高	営業利益
無機化学事業	498	△ 2	542	21	—	24
有機化学事業	483	51	460	40	—	△ 12
その他	35	3	28	2	—	△ 1
合計	1,017	51	1,030	63	—	11

※2021年度期首より「収益認識基準に関する会計基準」などを適用し、当該基準などに基づいた予想のため、売上高のみ増減額を記載していません。

株主還元

- 企業価値を高めるとともに、株主の皆様へ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付ける。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案しながら業績に応じた安定的な配当の継続を基本とする。



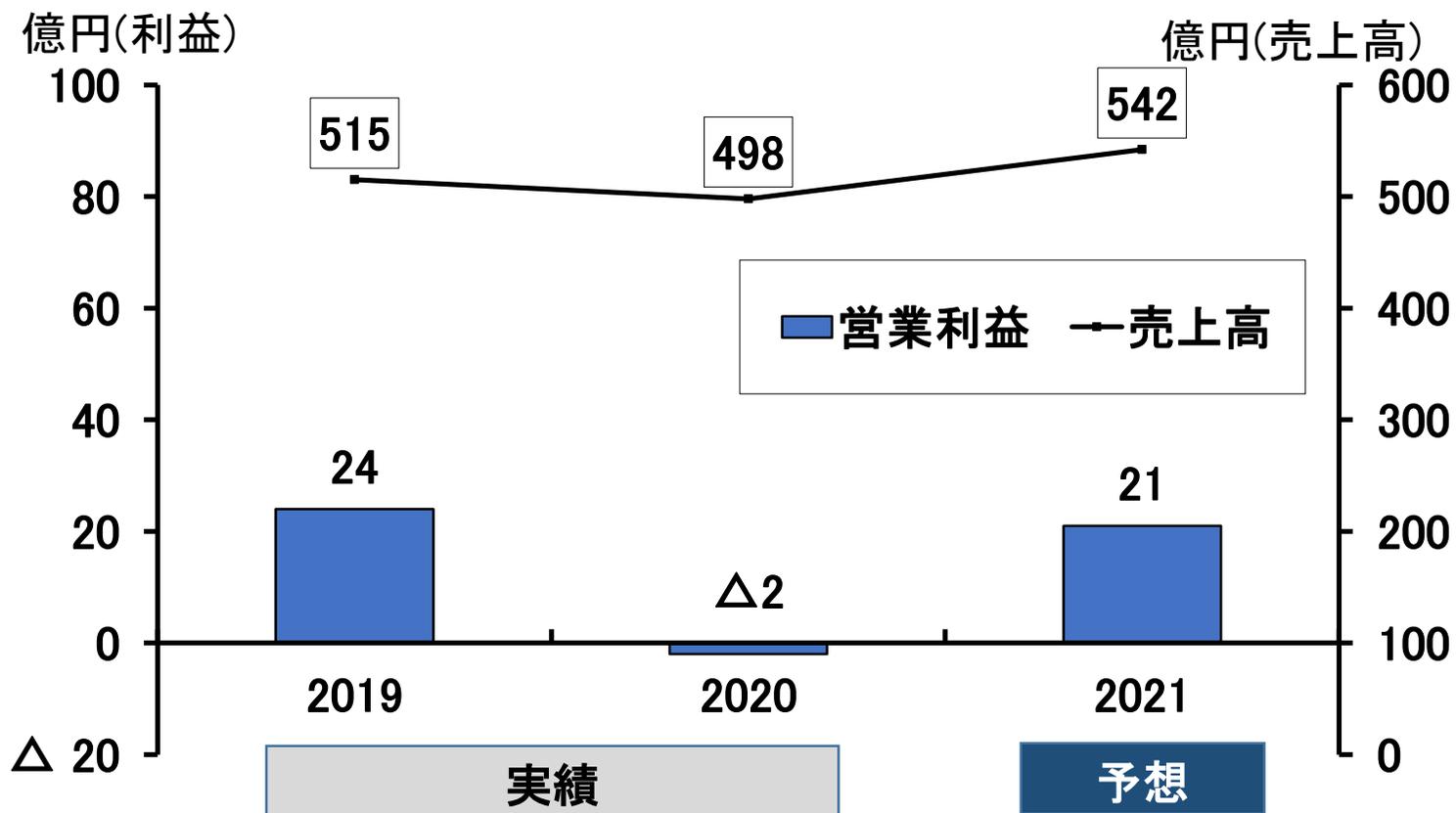
経営指標

	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 予想
1株当り当期純利益(円)	59.0	84.4	90.1
自己資本利益率(ROE)	3.1%	4.3%	4.4%
総資産営業利益率(ROA)	3.6%	2.9%	3.5%
売上高営業利益率	6.1%	5.1%	6.1%
自己資本比率	44.5%	44.2%	46.1%
借入金依存度	30.5%	33.4%	31.0%

事業別 業績概要

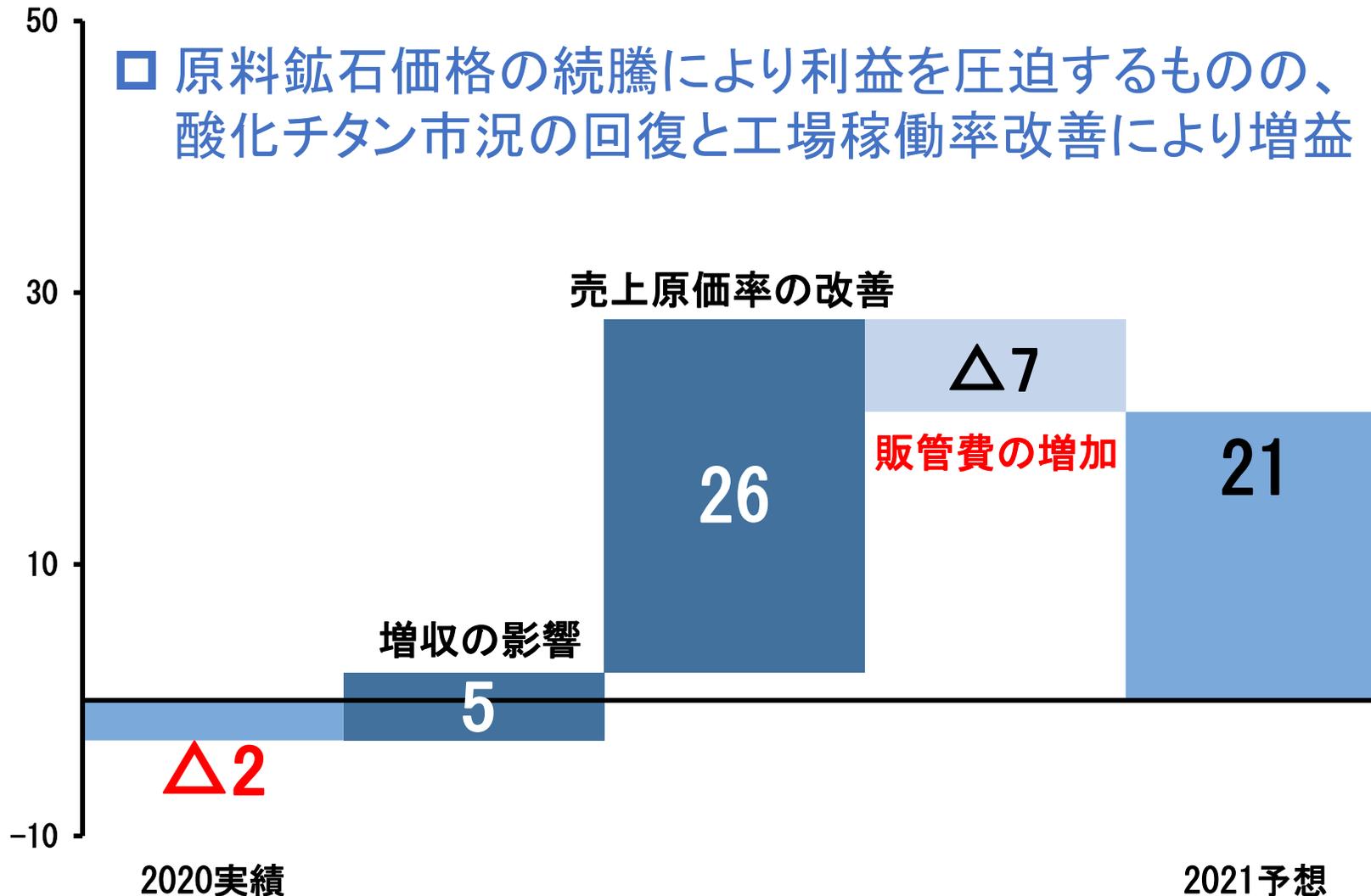
無機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し> □ いち早くCOVID-19から回復した中国を中心に
需要回復が継続

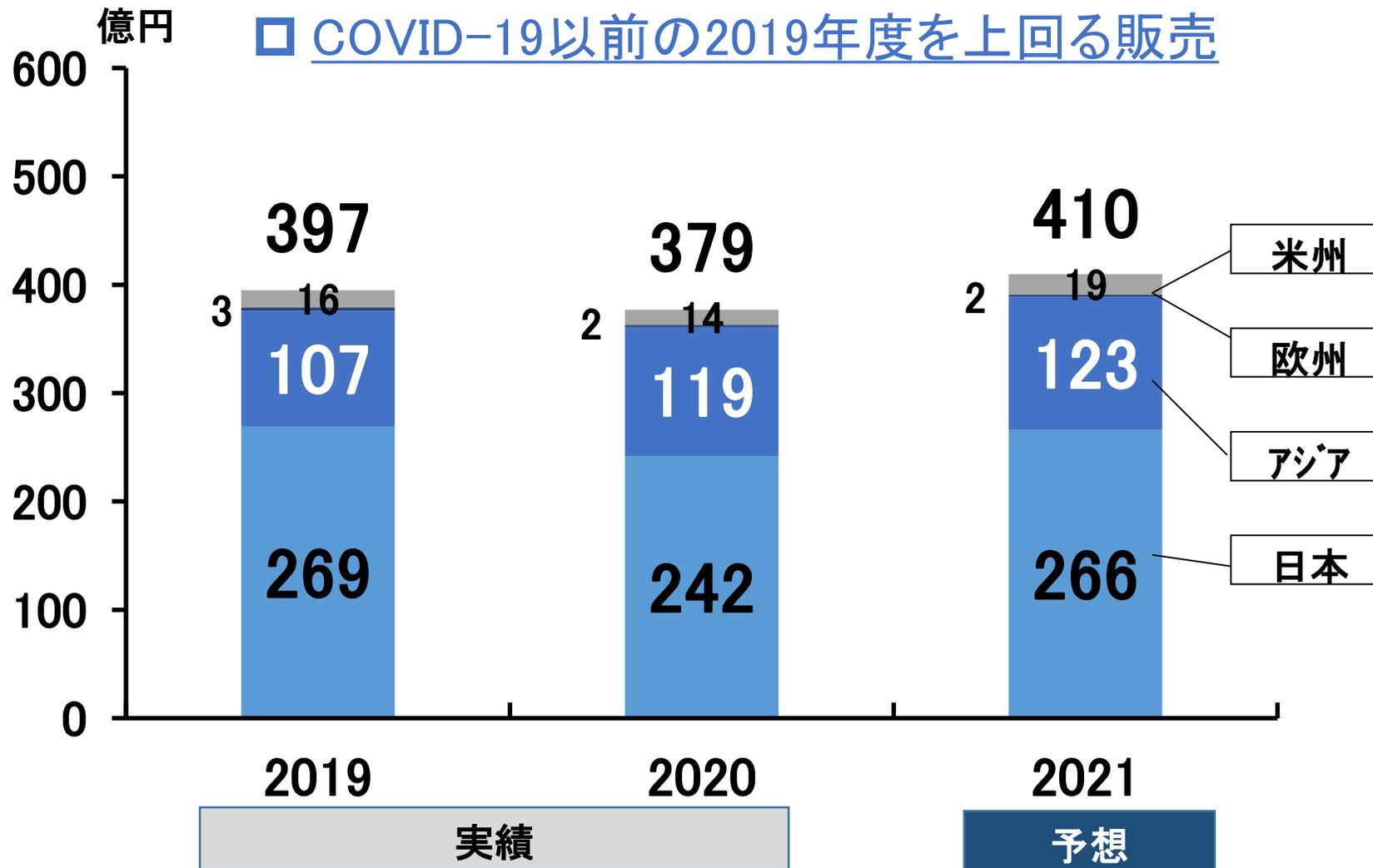


無機化学事業 営業利益増減要因

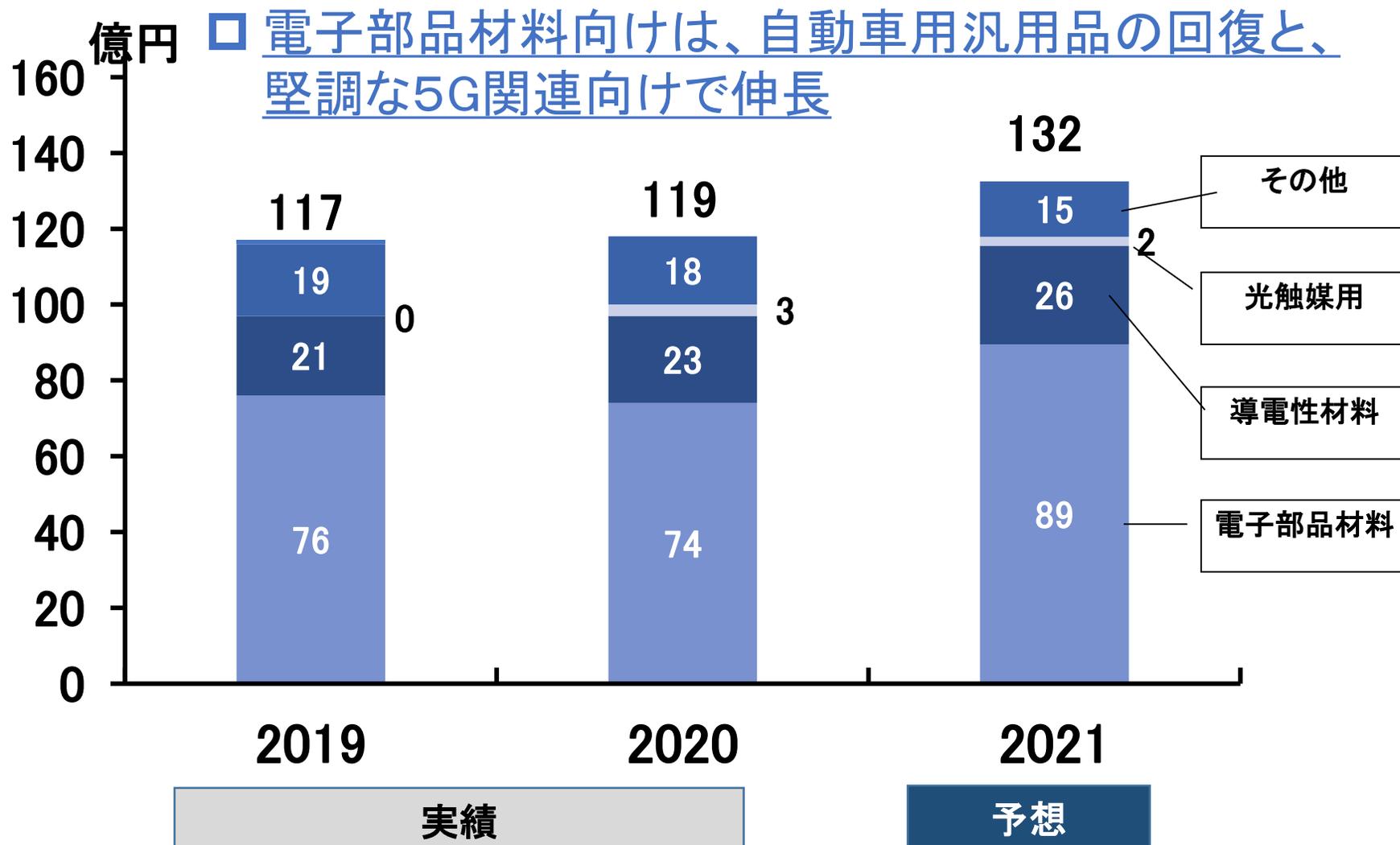
営業利益 億円



酸化チタン 地域別販売計画

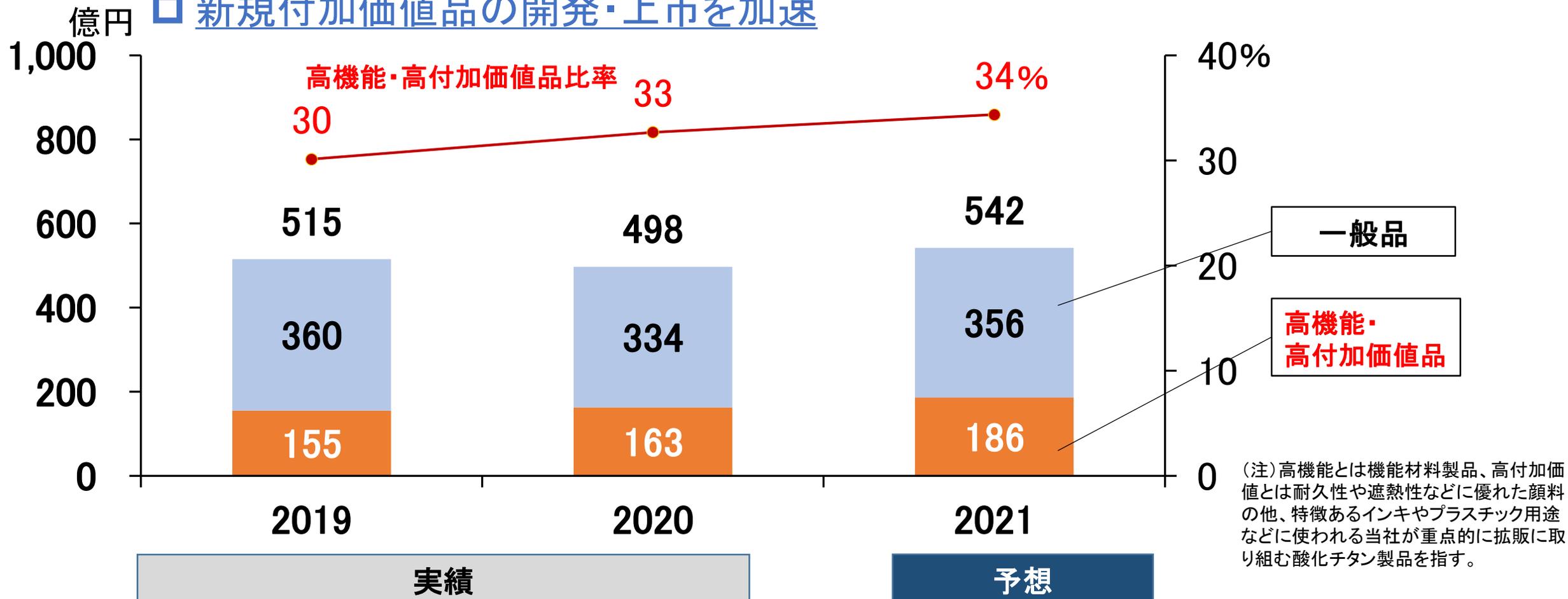


機能性材料 材料別販売計画



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

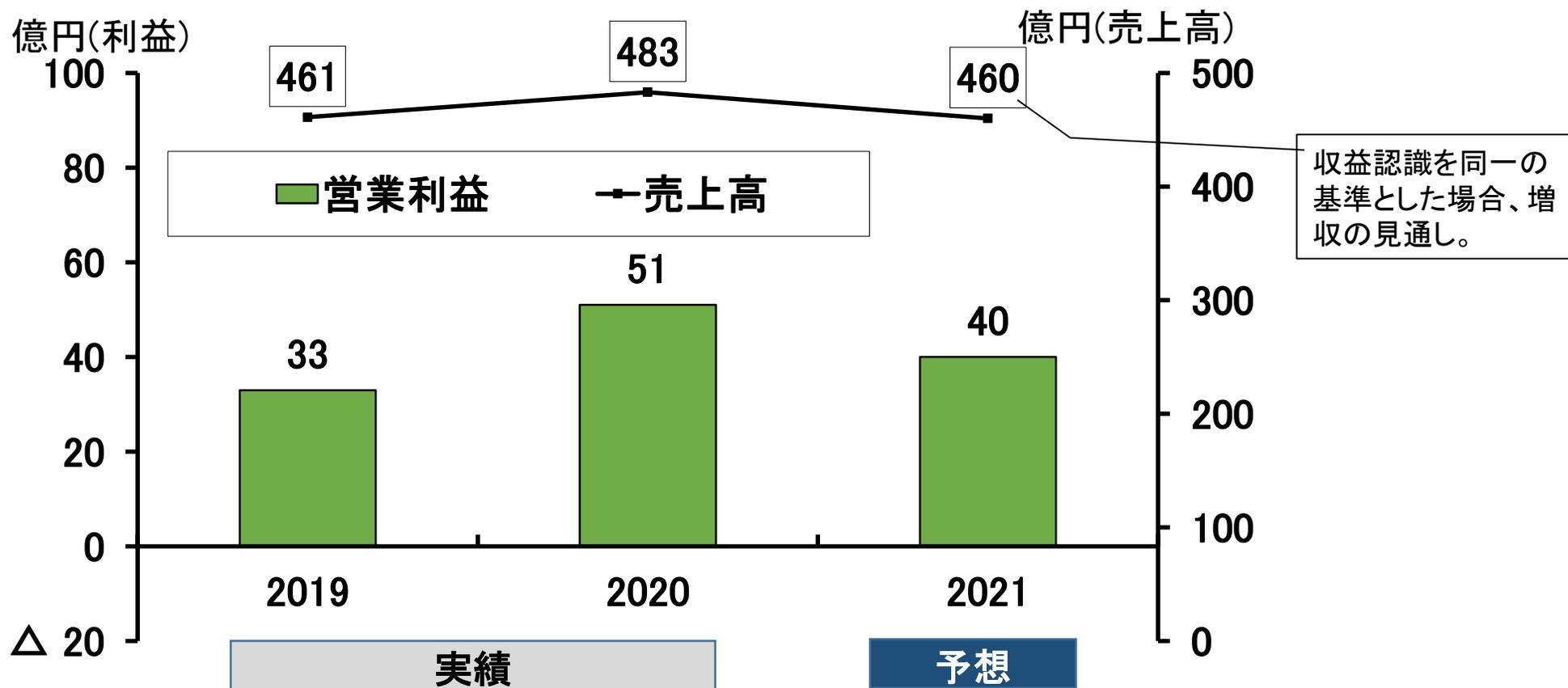
- 高機能・高付加価値品をグローバル展開して販売を伸ばす
- 新規付加価値品の開発・上市を加速



有機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し>

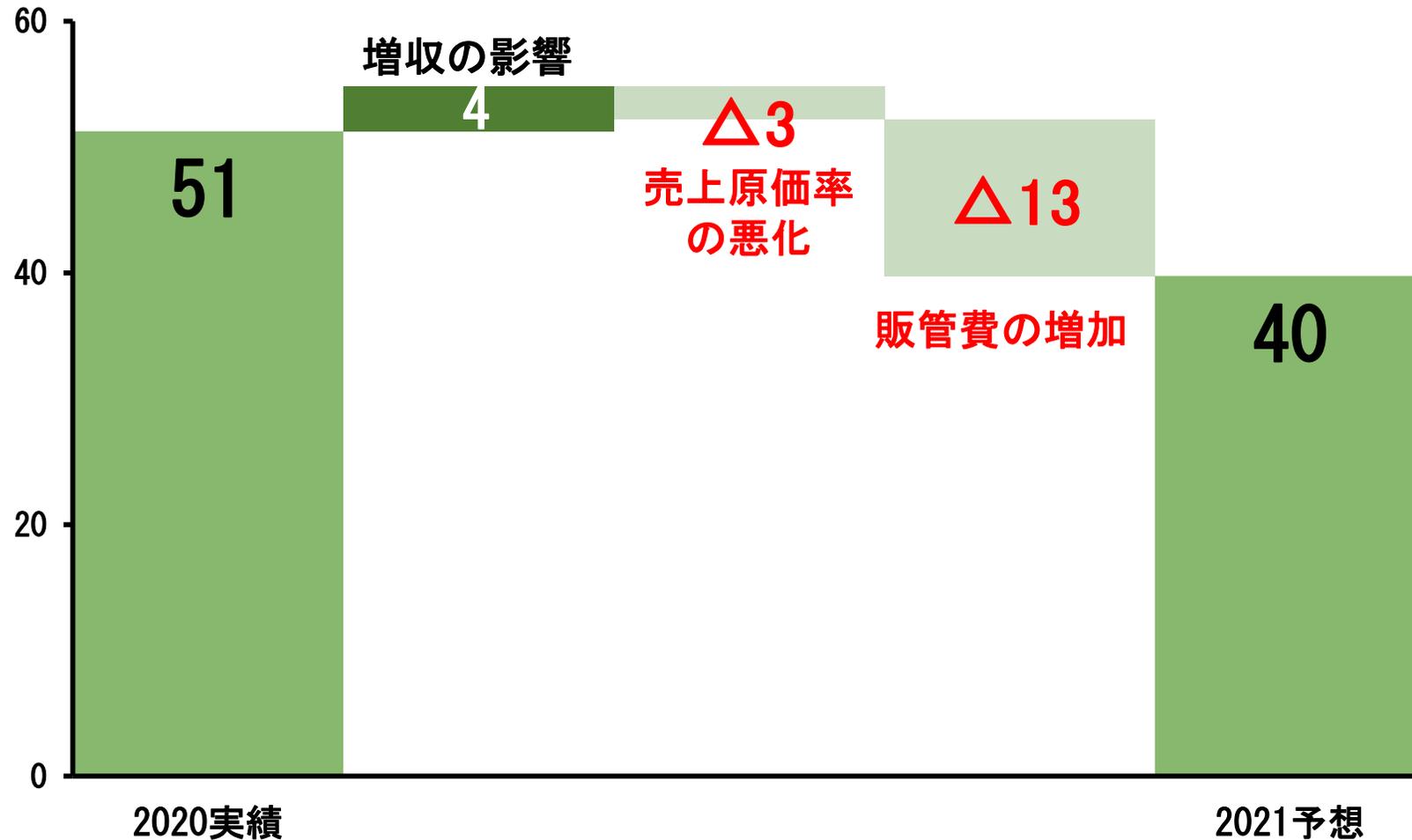
□ 農薬市場は天候など不確定な要素があるものの、
農業大国ブラジルの好調な穀物生産を背景に回復基調で推移



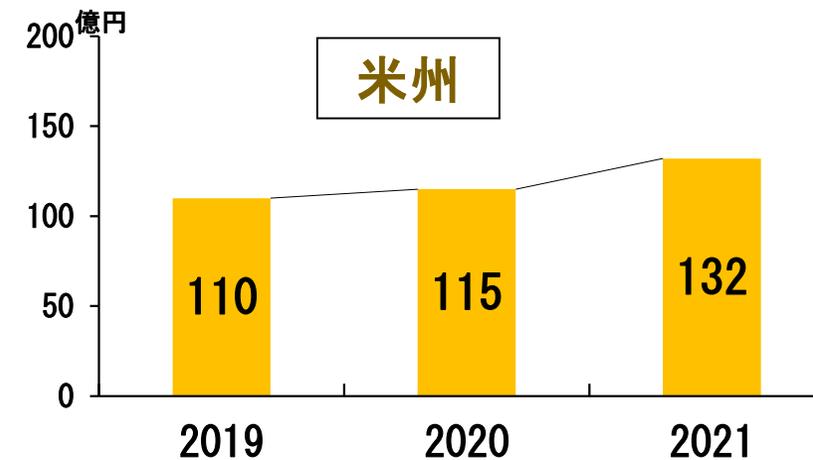
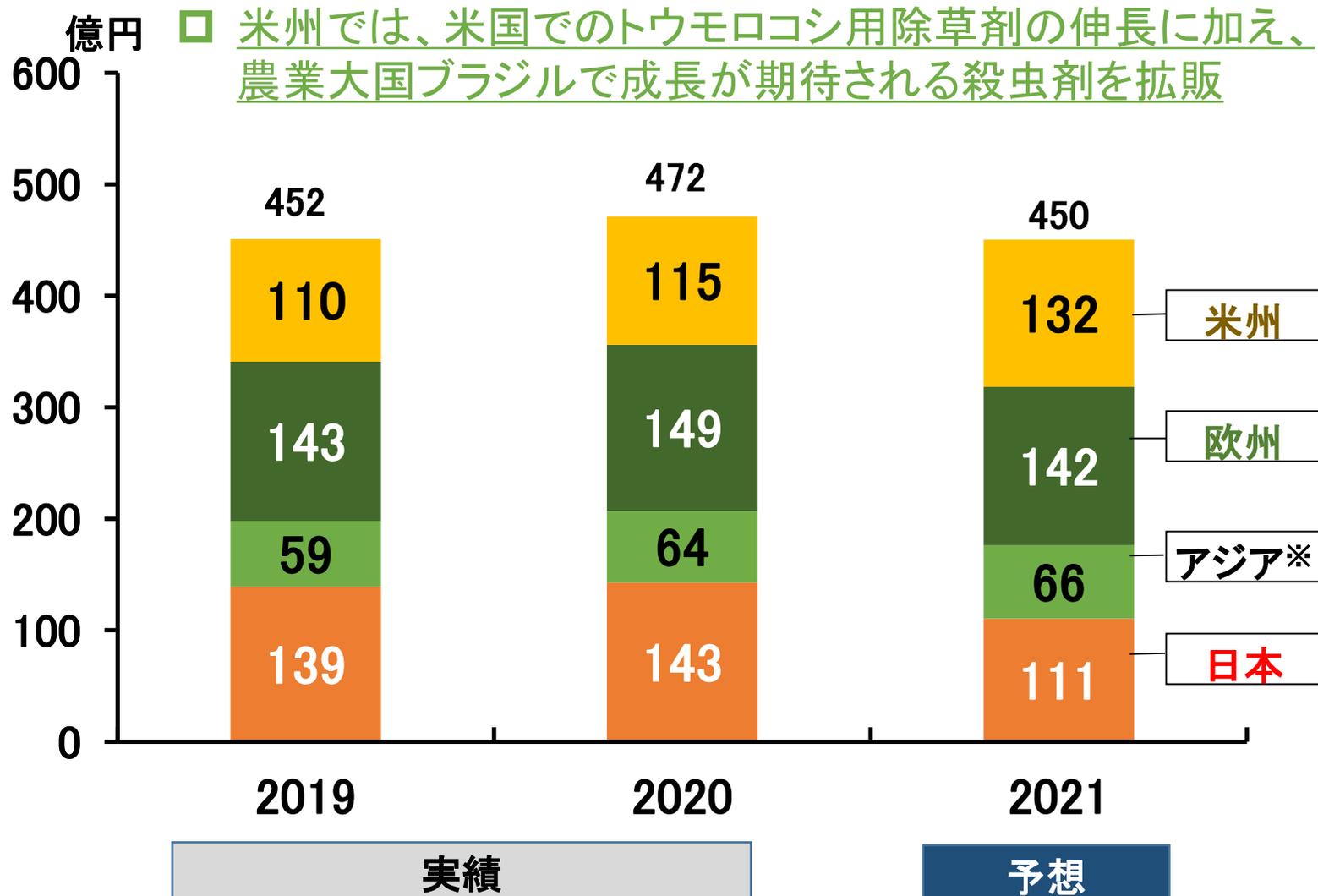
有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

□ 一般管理費の増加により減益



農薬 地域別販売計画



※アジアには、大洋州を含む。

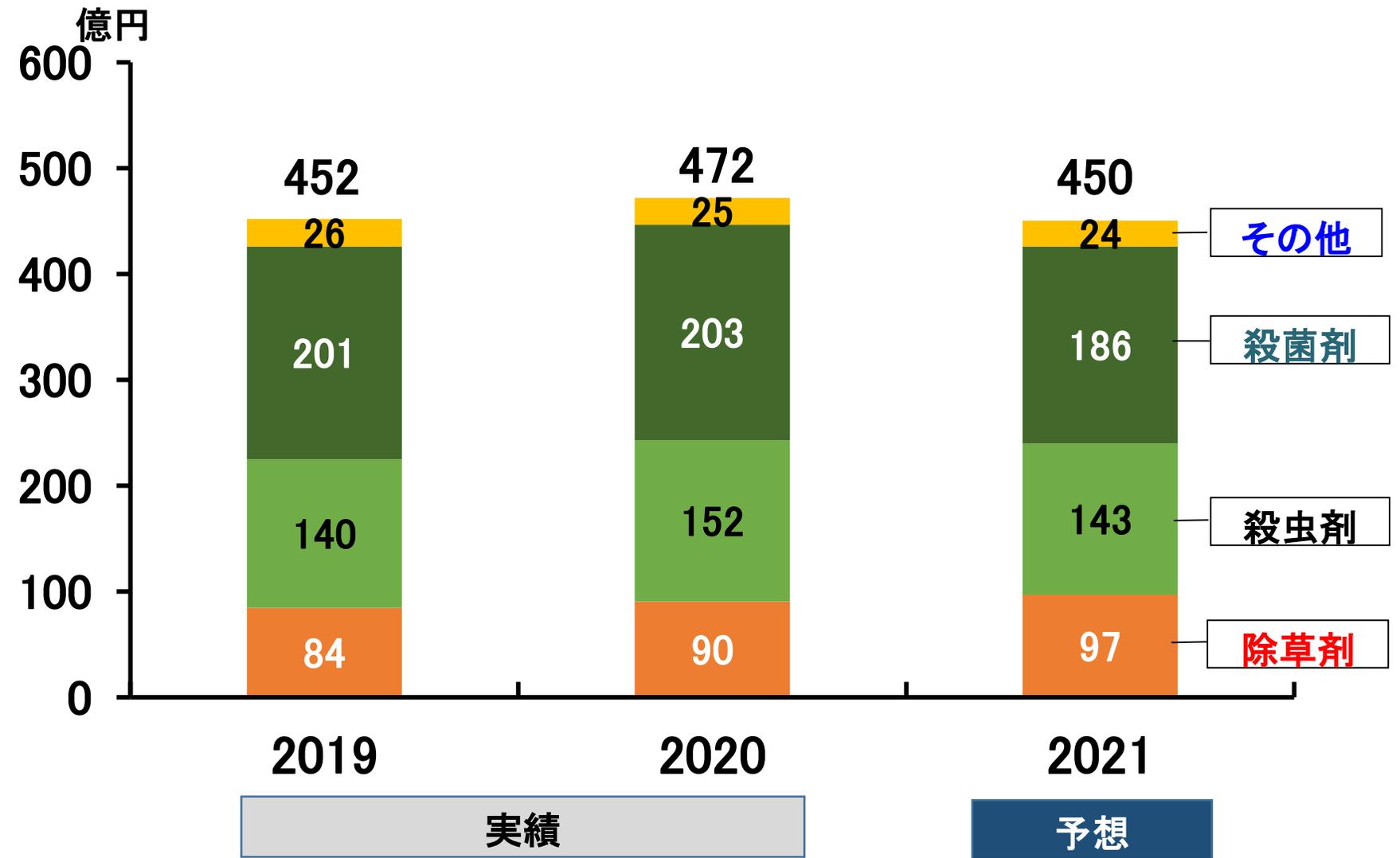
■ 2021年度は新収益認識基準の適用で△32億円の売上高差異が発生

農薬 用途別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



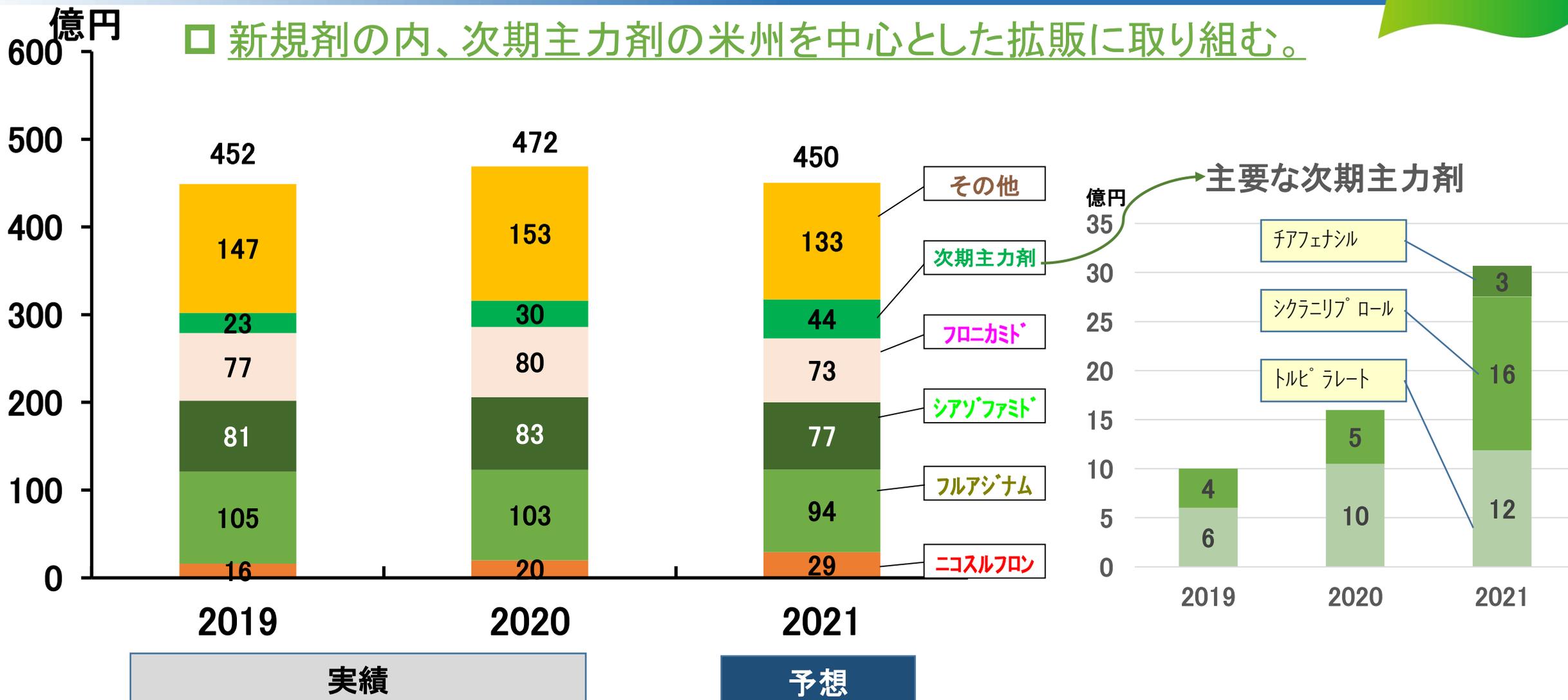
農薬 剤別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

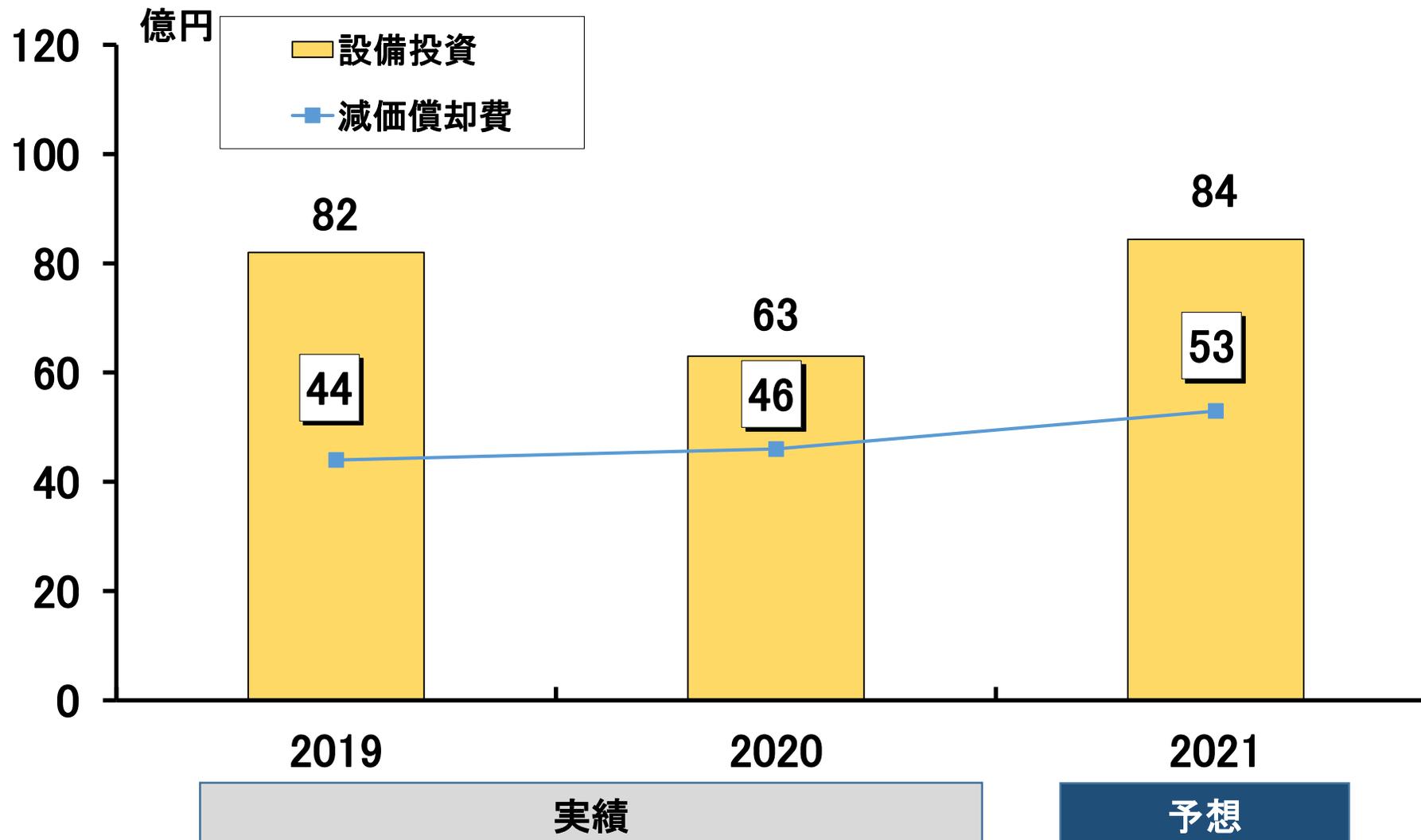
有機化学事業

□ 新規剤の内、次期主力剤の米州を中心とした拡販に取り組む。

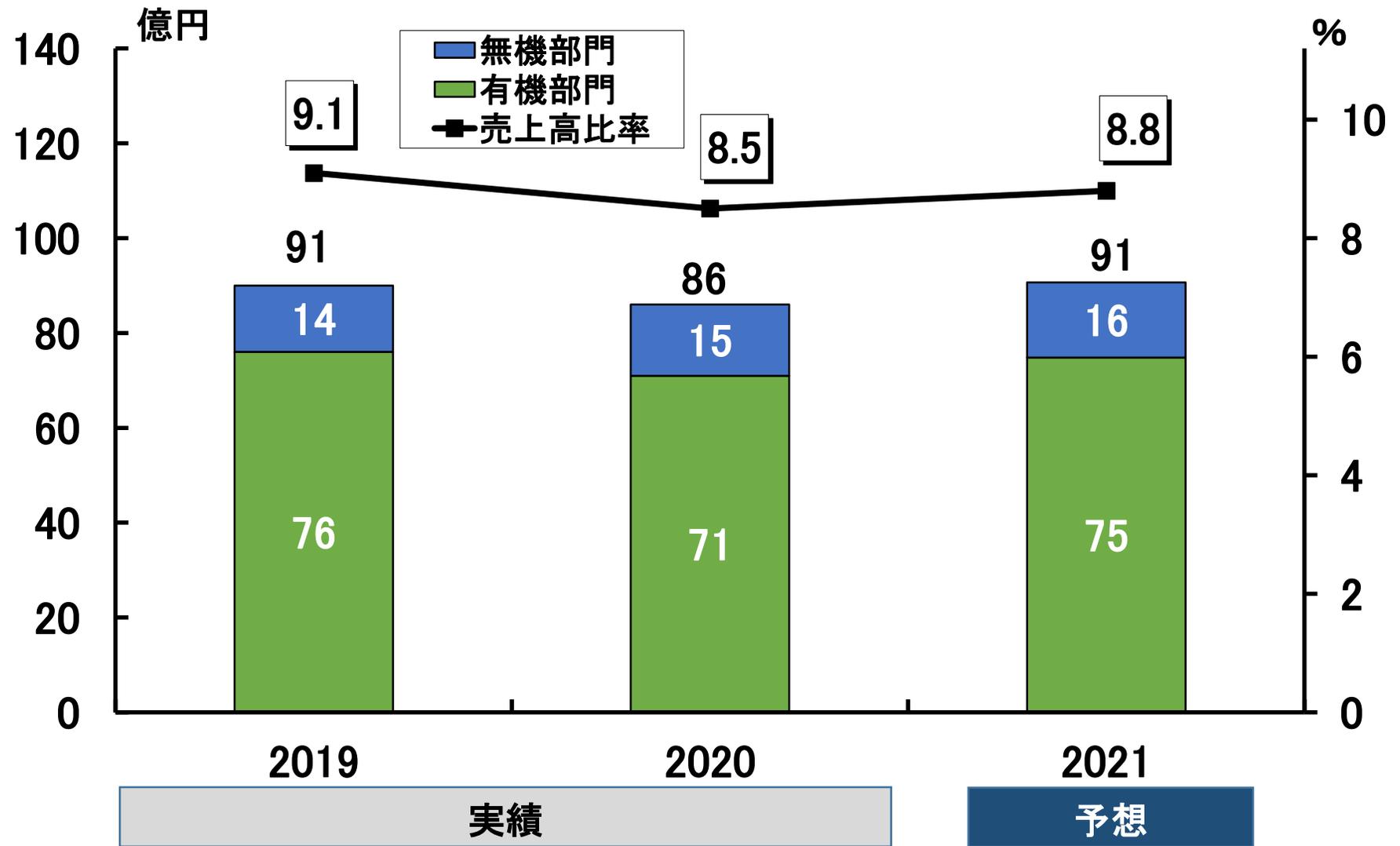


付属資料

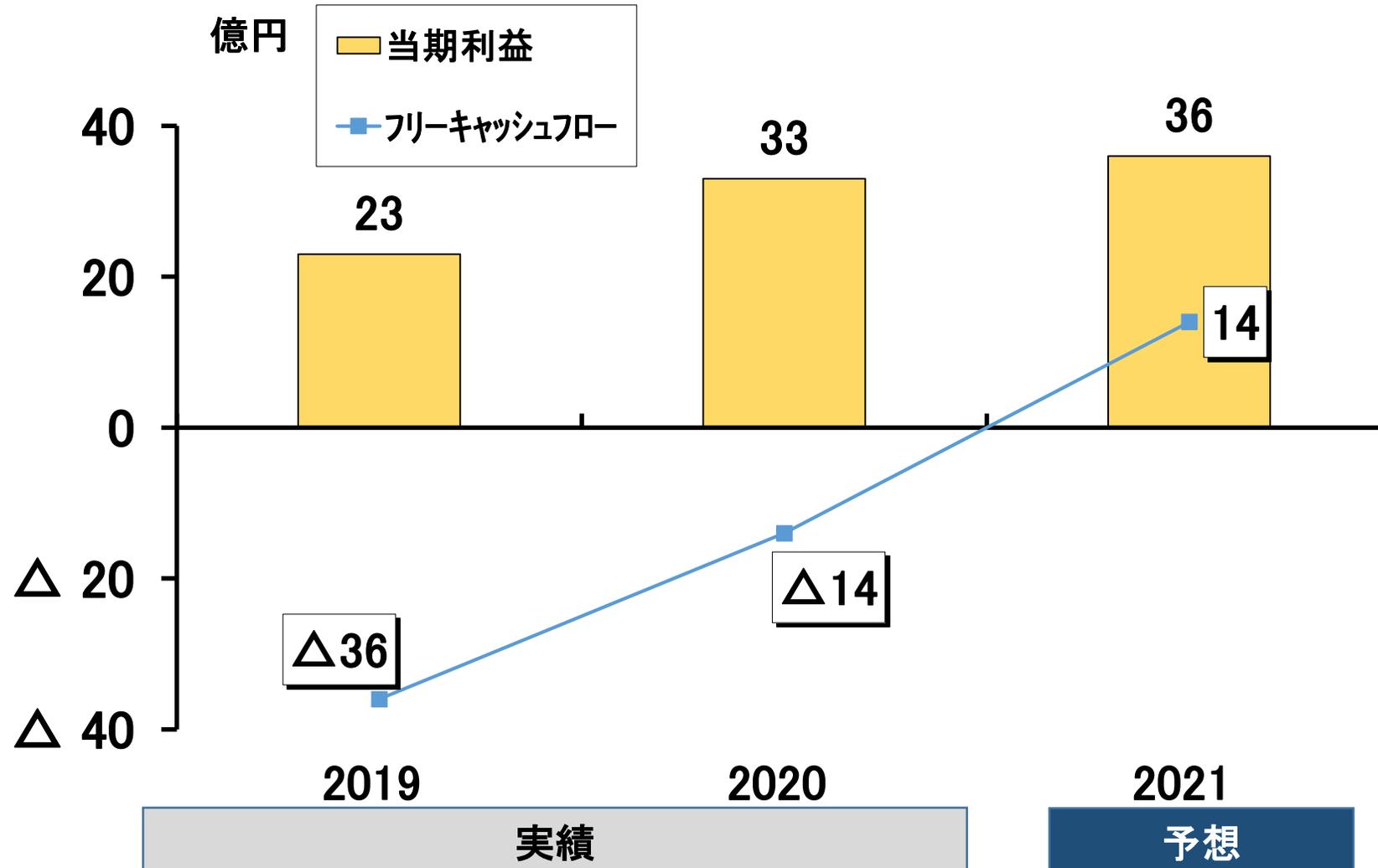
設備投資・減価償却費



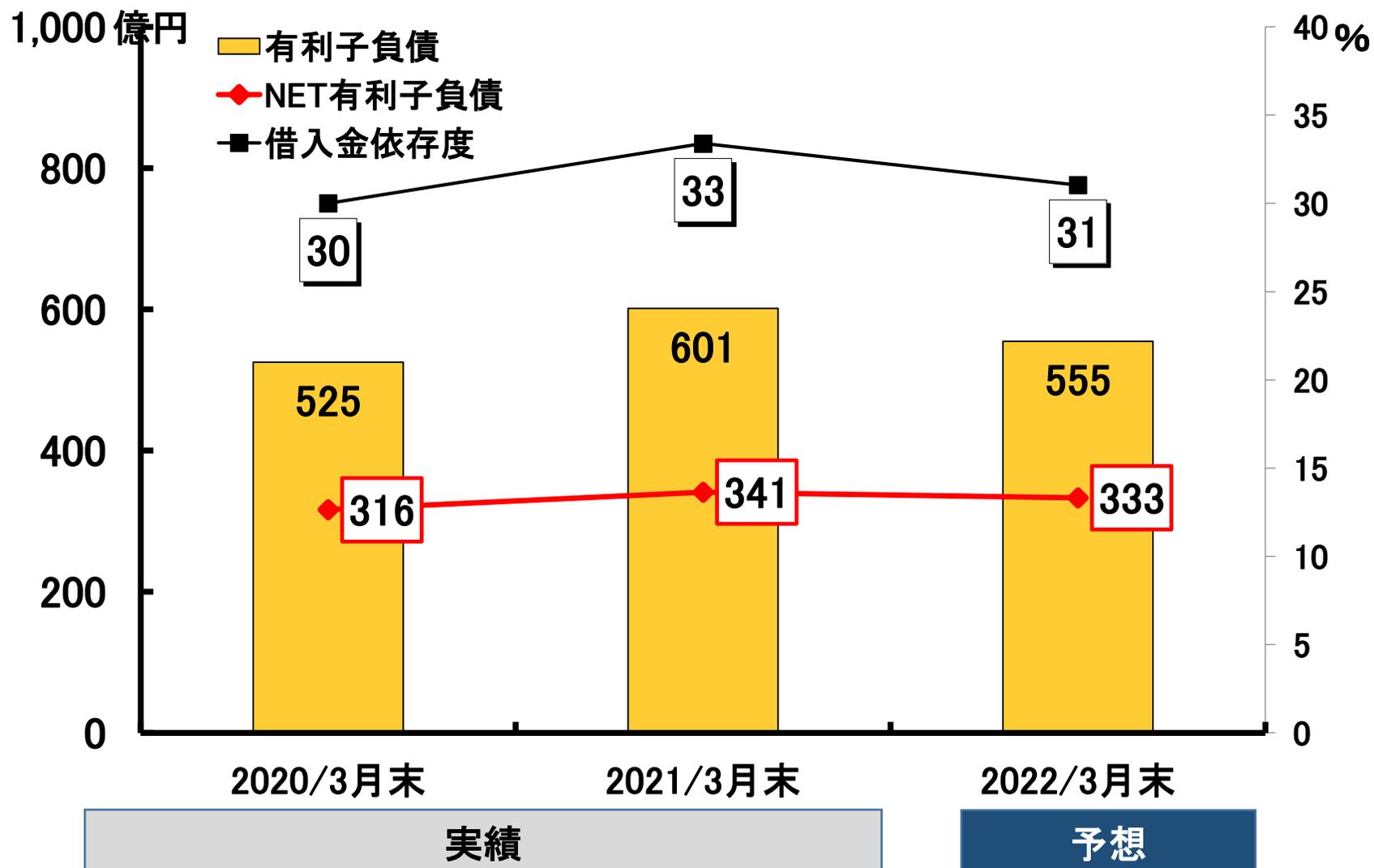
研究開発費



フリーキャッシュフロー



有利子負債残高



株主 / 顧客・取引先 / 地域社会 / 従業員

Vision 2030

「独創・加速・グローバル。化学の力で暮らしを変える。」

中期経営計画「Vision 2030 Stage I」

(2021～2023年度)

基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組み強化を推進することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

将来に関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料に含まれる将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき予想または予測し記載しているものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。従って、実際の業績等は、ここに記載する将来に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。